

機械創造コース

（この点検項目は、大学基準協会から、前回の「改善報告書の検討結果」により「大学院研究科博士後期課程の収容定員に対する充足率は、とくに理工学研究科機械工学専攻では0.08と低いので、定員充足率の改善に向けた早急な対策と一層の努力が望まれる」について再度報告を求められている事項である。）

本研究科の組織改組によって、これまでの5専攻が1専攻8コース制に変更されたことにより、全収容定員を8コースで平均した値と比較し論ずることとする。本コースの2006年度収容定員は博士前期課程において30名（各学年15名）、博士後期課程において7名（各学年2～3名）の割合と考えられる。博士前期課程においては、実学生数43名（1年生24名、2年生19名）であり、その比率は1.4倍にも達する。一方博士後期課程においては、実学生数1名（2年生1名）であり、比率は0.14である。

本研究科はその後改組して新たなコース制をとっており、簡単に比較することは難しいが、以下の

本章 III. 各学部・研究科の取組

表は、旧機械工学専攻と照らして1999～2006年度までの博士後期課程の定員充足状況を表したものである。

【博士後期課程】

(各年度5月1日現在)

年度	理工学研究科機械工学専攻			理工学研究科理工学専攻		
	在籍学生数	収容定員数	充足率	在籍学生数	収容定員数	充足率
1999	5	12	0.42	/	/	/
2000	4	12	0.33	/	/	/
2001	3	12	0.25	/	/	/
2002	1	12	0.08	/	/	/
2003	2	12	0.17	/	/	/
*2004	2	8	0.25	12	20	0.60
*2005	2	4	0.50	23	40	0.58
*2006	/	/	/	27	60	0.45

*理工学研究科については、従来の5専攻制を、2004年度より理工学専攻のみの1専攻8コース制に改組。

*したがって、2004年度以降は機械工学専攻と理工学専攻の数値を併記している。

前回の改善報告書にもあるとおり、旧機械工学専攻博士後期課程の収容定員が大幅に不足している事実は認めざるを得ない。前回指摘以降、収容定員の変化に伴い2004年度までの間充足率としては増加しているが、在籍学生数は余り変化がない。組織変更に伴うコースになっても傾向は同様である。これまで本コースでも各教員・研究室で優秀かつ意欲的な学生に対して博士後期課程進学を勧奨することは大いに試みてきたが、必ずしも功を奏するとは限らず、良好な定員管理ができているとはいいがたいのが現状である。

本コースでは前述のように適正な指導と厳正な評価ができる教員組織と設備を持ちながらも、私立であることの財政的条件によってそれなりの学費負担を学生に求めなければならず、このこともまた重大な問題の1つであると考えている。とはいえ、博士後期課程学生の増強は本コースの研究・教育レベル向上に必要不可欠であるので、学生の財政的負担軽減などの副次的な要素も盛り込んで、今後も引き続き対策を立てる必要がある。